

第 15 章

参考文献

参考文献というよりも、英語で言えば Further Readings の推薦なのだが、本文中でも触れた以下の書籍はいずれも良書だと思う。

- ラオ, C. R. (藤越康祝, 柳井晴夫, 田栗正章訳)『統計学とは何か ■偶然を生かす■』, 丸善, 1993 年: 統計的な「ものの考え方」について, 古典的な例や身近な例から, かなり高度な話題まで幅広く取り上げ, 切れ味のよい解説を加えた名著である。
- 鈴木義一郎『情報量規準による統計解析入門』, 講談社, 1995 年: モデルベースの解析をするために, 統計モデルがどういう意味をもつのか, その当てはめはどのように評価すべきか, ということを基礎から丁寧に解説している本であり, 初学者にも薦められると思う。
- 浜田知久馬『学会・論文発表のための統計学 統計パッケージを誤用しないために』, 真興交易(株)医書出版部, 1999 年: 自分でパッケージを使って統計解析をするときに気をつけなくてはいけないポイントを要領よくまとめた本。論文を読むときに, そこで使われている手法のどういう点に注意して結果を読み取らなくてはならないか, ということもわかる。
- 粕谷英一『生物学を学ぶ人のための統計のはなし—きみにも出せる有意差』, 文一総合出版, 1998 年: 統計解析をやり始めた大学院生などが陥りやすい罠, 統計結果を読むときに間違いやすい点などを対話形式の軽妙な調子で書いた本であり, とっつきやすいと思う。
- ケンドール, M. G. (奥野忠一, 大橋靖雄訳)『多変量解析』, 培風館, 1981 年: 方法の羅列やパッケージの出力の見方に終始する多変量解析の解説書が多い中で, この本は多変量解析の意味を丁寧に, しかも数式は必要最小限しか使わずに解説した良書である。絶版らしいのは残念なことである。

- 竹村彰通『現代数理統計学』, 創文社, 1991 年: 統計学を本気で学びたい人は、この本を理解することから入るとよいと思う。腰を据えてかかれないと制覇できない高い山であるが、統計学に対する理解の次元が変わる。
- 佐藤俊哉, 松山裕「疫学・臨床研究における因果推論」, 甘利俊一, 竹内啓, 竹村彰通, 伊庭幸人(編)『統計科学のフロンティア 5 多変量解析の展開 隠れた構造と因果を推理する』, 岩波書店, pp.131-175, 2002 年: 因果推論について、すばらしくよくまとまっている。やや内容的には高度だが、事例がウィットに富んでいて面白い。
- Rothman K. J. *Epidemiology: An Introduction*, Oxford University Press, 2002 年: 疫学の入門書だが、因果推論について書かれた第 2 章は web 上で公開されており、必読である。
- 伏見正則『理工学者が書いた数学の本 確率と確率過程』, 講談社, 1987 年: 確率の捉え方について明快に書かれている。
- 池田央『調査と測定』, 新曜社, 1980 年: 尺度について厳密な説明が与えられている。
- Grimm L. G. *Statistical Applications for the Behavioral Sciences*, John Wiley & Sons, New York, 1993 年: 行動科学者のための統計学の入門書だが、基礎的な手法についてわかりやすくまとめられているだけでなく、他の本にはあまりつまこんで扱われていないトピック(同順位が多数ある場合の中央値の扱いなど)が取り上げられている。
- 豊川裕之, 柳井晴夫(編著)『医学・保健学の例題による統計学』, 現代数学社, 1982 年: 古い本だが、医学・保健学分野の例題が多数収録され、手計算に必要な情報もきちんと載っている良書である。
- 永田靖, 吉田道弘『統計的多重比較法の基礎』, サイエントリスト社, 1997 年: 多重比較についてきわめて丁寧に論じ尽くした教科書である。ただし、「基礎」と銘打たれてはいるが、経験を積んだ研究者を対象として書かれており、学部学生が読むにはかなり難しい。
- 大橋靖雄, 浜田知久馬『生存時間解析 SAS による生物統計』, 東京大学出版会, 1995 年: 難しいが、生存時間解析について、これほど深く広くまとまった本は他にないと思う。SAS で分析する場合の具体的手順や出力の解釈が書かれているが、数学的意味についても丁寧に説明されているので、SAS が使える環境になくとも読む価値はある。
- 竹内啓, 大橋靖雄『数学セミナー増刊 入門Ⅰ現代の数学 [11] 統計的推測 - 2 標本問題』, 日本評論社, 1981 年: 2 つの分布を比較することについて網羅的に扱われている。記述は高度かつ深いので、何度も読み返すと良いと思う。

- 伊藤嘉昭監修・粕谷英一、藤田和幸『動物行動学のための統計学』，東海大学出版会，1984年：ノンパラメトリックな検定についての説明がわかりやすい。
- ジョエル・E・コーエン著，重定南奈子・瀬野裕美・高須夫悟訳『新「人口論」：生態学的アプローチ』，農山漁村文化協会，1998年：世界人口の変化（将来予測を含む）とその要因について，これまでに行われてきたさまざまな研究を概観した本であり，大変面白い。
- 尾崎統『時系列論』，日本放送出版協会，1988年：放送大学のテキストとして，時系列解析の基礎からかなり高度なことまで一通りカバーしている。